

43443

教科書文庫

4
610
44-1934
20003 02820

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

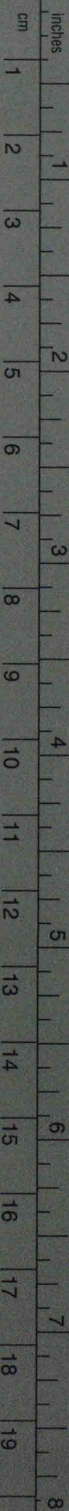


© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



教科書文庫  
4  
610  
44-1934  
2000302820

愛媛縣教育會編 (改訂再版)

農業補習 蔬菜編下

株式會社 向井書店發行





教科書文庫  
4  
610  
44-1934  
2000302820

農業補習 蔬菜編 下卷

目次

第一章	胡瓜	1
第二章	越瓜	17
第三章	甜瓜	22
第四章	隼人瓜	25
第五章	南瓜	28
第六章	西瓜	36
第七章	茄子	43
第八章	蕃茄	52
第九章	草苺	56
第十章	本縣に於ける蔬菜栽培の現在及將來	60

附 録

- 一、本縣に於ける蔬菜統計
- 二、蔬菜栽培一覽表
- 三、蔬菜特產地一覽表
- 四、蔬菜審査一覽表

375.9  
E49

室 料 中 央 大 学 図 書 館  
廣 島 大 学 図 書 館

凡 例

一、本書は實業補習學校の新規程に基き、主として縣内農業補習學校後期の農業科教科書に充てんが爲に編纂したものであるが、實際農業に従事する人々の参考書としても亦適當なるものと信ずる。

本書は約二十編の小冊子に分ち、各校夫々郷土の産業状態に應じて任意取捨選擇し得るに便ならしめた。

本書各編の執筆者は夫々の専門家で、縣の産業方針を經とし、各自多年の經驗を緯とし、主として縣下の實際に適切なる様に編纂したものであるから、讀者は安心してこの方法を實地に適用してよい。

本書各編の教材はなるべく重複を避け、猶部分的に細説を要する點多かるべきを考慮し、餘白を設けて記入に便ならしめた。

本書各編共初版以來相當年月を經たので茲に改訂再版して時勢の進運に伴ふ様留意した。

昭和八年五月

愛媛縣教育會



広島大学図書  
2000302820



廣島大學  
圖書印

農業  
補習

蔬菜編 下卷

第一章 胡瓜

用途

胡瓜は果菜類中最も早く市場に出で、その特有の香氣と甘味とはよく人の嗜好に適し、漬物・酢漬・味噌和等として夏期に於ける唯一の蔬菜である。

**渦巻漬** うす塩で漬け水の十分に出た時二つ割になし、種子を取り出し一日陽干して一方から堅く巻きたけがばで束ね、これを酒粕と塩とにて漬け込む時は二週間で食することが出来る。

**白和** 胡瓜を細く刻んで塩揉みにし、かたく搾り豆腐の摺つたのに塩と砂糖とを適宜加へて和へる。

氣候土質

胡瓜は元熱帯地方の原産で、性强健廣く温帯地方に栽培せられ、我が國の如き到る所に産するけれどもその氣候あまり



に高温多湿である時は病蟲害の發生著しく、強烈な日光を好まず早く枯衰するに至るものである。

土質は肥沃で適度に濕氣を有する壤土又は埴質壤土が最も適して居る。之が爲め近時水田裏作としての栽培が盛になつた。早熟栽培を行ふ場合には風のあたらぬ暖い砂質壤土を選ぶが良い。

**品 種**

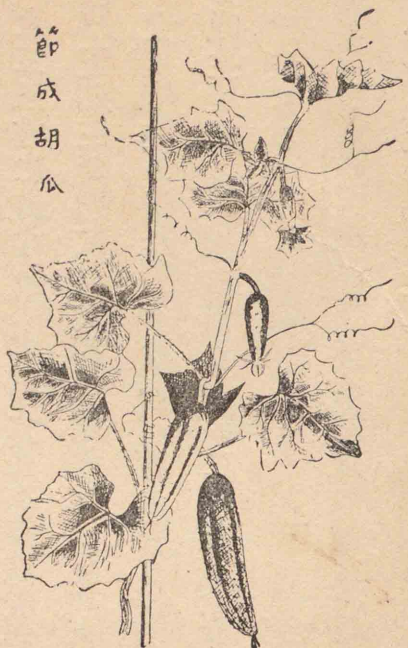
胡瓜は夏期に於ける重要な蔬菜で品種の数も多いけれども、その中廣く栽培せられる主なるものは次のやうである。

**節成胡瓜** 最も早生豊産で、現今廣く栽培せられる品種である。三四節目より殆んど各節に雌花を生じて結實するから節成の名がある。

**イ、針ヶ谷胡瓜** 埼玉縣北足立郡與野町附近の産で、葉は濃緑性強健である。早生で外皮濃緑色を呈し、顆は長くて形よく整ひ、品質優良促成用として廣く栽培せられ豊産で頗る有利の品種である。

**ロ、馬込半白胡瓜**

東京府荏原郡馬込地方の産で極早生である。



節成胡瓜

顆は正しい長圓筒形で、肩部緑色中部以下は綠白色を呈する。性強健豊産で品質亦優等である。此に似たものに堺白節成相模半白胡瓜がある。

**ハ、刈羽節成胡瓜** 新潟縣刈羽郡の産で性強健病に抵抗する力が強い。葉は綠色で小形、蔓は太く側枝を生ずることは殆んどない。顆は細長く肉は青味のある白色で、心は小さく種子少なく味は佳良である。

**ニ、落合節成胡瓜** 早生最近の改良種で、本縣に最も多く栽培せられてゐる。形正しく肉厚く品質優良で強健豊産の良種である。



此の改良種にT號と云ふふのがある。

この外金澤節成胡瓜とて品質良好な品種がある。

**大胡瓜** 節成に比すれば一般に熟期遅く、性強健で側枝の發生が多い。

**イ、大胡瓜** 在來種中節成に次いで廣く栽培せられる。草勢旺盛で強健分枝力強い晩生種である。顆は節成に比し遙に長大で一尺二三寸に達する。毛馬大胡瓜臺灣大胡瓜等は之に屬する。

**ロ、支那三尺胡瓜** 支那の原産で大長胡瓜ともいふ。性強健で莖太く側枝の發生が少ない。顆の長さ二三尺に達し顆皮は濃緑で晩生である。之に似たものに北京(ペキン)山西省長等幾多の品種がある。

#### 栽培時期と需給關係

近來胡瓜の需要は著しく増加し年中絶え間がないやうになつたから、その栽培者も亦多年の經驗と技術の熟達によつて四時播期を異にし市場に出して居る。

**一、促成栽培** 温床内に於て十月から一月の間に播き、一二月頃から五月頃迄順次採收するもの。

**二、半促成栽培** 一月頃温床に播き三月頃温床内に定植し霜害の虞無きに至れば油障子を除き、支柱を立て、四月中旬から六月中旬まで採收する。

**三、早熟栽培** 二月頃温床に播き、四月圃場に定植し五六月の候採收するもの。

**四、普通栽培** 四月頃苗床に播いて移植するか又は本圃に直播して七八月頃採收するもの。

**五、抑制栽培** 七八月頃圃場に直播し、九月頃から降霜期迄採收するもの。

#### 普通栽培法

**種子** 種子は肥大で色の鮮な新しきものがよい。

しかし早生種は三年目位の古種を用ひると成熟が早いのみでなく收量も亦多いと言はれて居る。



播種 直播法と床播法とがある。直播法は霜の憂ひのない頃に  
至り一定の距離に數粒宛播き、後丈夫なもの一本を残し他は間引く  
のである。床播法は早期に苗床にて苗を育て霜害の恐ないやうにな  
つて移植する方法で、直播法に反し結果期に入ること早く従つて高  
價に販賣し得る利益がある。

育苗 床播をなすには三四月頃温暖な場所を選んで苗床を造り、  
種子を播付け二三分の厚さに土をかけ、藁を覆ひ時々灌水し發芽直  
ちに藁を除き後強壯な苗を方二寸に一本位残し、他は間引を行ひ良  
い苗を育てることに心掛けねばならぬ。苗は短大なるものを良とし、  
節間が長くて纖弱なものはよくない。

植付 霜の憂のない四月下旬頃になつたら、先づ十分に灌水し  
苗の鬚根を切らぬやう注意し十分土を付けて丁寧植付ける。本葉  
二枚位出たならば植付けて良いが若し苗があまりに太り過ぎ適當の  
時期に移植出来ない時は、床内に一度假植して置くがよい。

整地 水田に麥の間作として栽培する場合は、麥畦の一部分を  
耕すのみで宜しいが、然らざる場合には普通の如く丁寧整地をな  
し畦を作る。畦幅は三尺乃至四尺株間は一尺五寸乃至二尺位を普通  
とする。

肥料 多量の窒素質肥料を要するもので元肥として堆肥・油粕  
魚肥・木灰・過磷酸石灰等を適當に配合して施し、十分成長を始めた  
後追肥として硫安・人糞尿のやうな速効肥料を施す、その効果極  
めて大である。今一反歩に對する施肥の標準量を示せば次のやうで  
ある。

堆肥	二百貫	窒素	四貫五百
油粕	六貫	磷酸	三貫
過磷酸石灰	六貫	加里	三貫
木灰	十五貫		
人糞尿	二百五十貫		

(内二百五十貫追肥)

手入 植付け後は陽光寒風等によつて苗の萎凋するのを防ぐ爲



め藁の類で覆ひをする必要がある。又乾燥する時は毎朝灌水するがよい。既にして一週間ばかりを経て苗の根の付いたのを見届けて稀薄な人糞尿を與へ、爾後二三回同様の肥料を施し且つ數回中耕除草を行ひ、蔓が段々伸長したら支柱を立て、蔓をこれに纏はしめねばならぬ。蔓先きの下垂する時は形を亂すことが多いから注意を要する。摘心は節成胡瓜の如く節毎に結果するものにはこれを行ふの必要がないけれども、側枝に多く結果する大胡瓜の如きには一つの肝要な手入れである。その方法は本葉が三四枚發生した頃先づ摘心して二枝を發生せしめ、又は其の儘支枝の頂上迄伸びたならば横に曲げ一尺位にして蔓先を摘んで側枝を出さしめる。此の枝は藁で吊り上向にし雌花が着いたならば其の先に一枝の葉を残して摘除する。かくの如く二三回摘心を行ふ時は結果を多からしめるものである。

五月上旬頃から數回ボルドウ液を散布して露菌病を豫防する。

### 早熟栽培

促成栽培品に次ぎ早く市場に供給する目的を以て栽

培する方法であつて最も利益多く、近時本縣に於て漸次發達しつつある狀況である。胡瓜を露地に於て成るべく早く産出せしめんには、種子は早春温床に播かねばならぬ。温床については次の促成栽培の所で述べる。

**播種期** 氣候の寒暖や技術の巧拙により異なるもので、本縣の如きに於ては四月中旬に至らねば露地に定植することが出来ない。故にあまり早く播いて苗が太り過ぎる時は、植傷みをしてその後の發育を害するから、二月下旬乃至三月上旬頃播き一二回假植をなし、四月中下旬頃本葉四五枚のものを植付ける。

**温床内の管理** 胡瓜は比較的低温度で發芽するから、普通攝氏二十三四度を保つてゐる温床に播く。さうすると四五日間で發芽し始めるから、適當に障子を開いて苗の徒長を防ぎその後は障子の開閉と床温を十六度以下に下げぬ事と灌水とに注意せねばならぬ。密接した所は間引を行ひ、本葉が將に現れんとする時先づ三寸平方に第



一回の移植を行ひ、更に本葉二三枚を開いた時四寸平方に第二回の移植を行ひ、以て苗の徒長を防ぎ且つ細根の發達をはかるのである。

#### 抑制栽培法

夏胡瓜の跡を絶つた後に出るものを秋胡瓜と稱してその需要甚だ多く、促成胡瓜に次ぎ高價である。これを栽培するには七八月頃播かねばならぬ。苗は冷床に仕立てることもあるが、多くは露地に直播するのである。畑は特に準備し置くこと少なく各種の作物の間作として栽培する。この時期は甚だ高温で生育が極めて早いから、播種後四五十日で既に結果し採收することが出来る。しかし高温の爲め早害にかゝり易いので、病蟲害の發生が多いのこの爲め栽培は頗る困難である。

#### 促成栽培

冬期或は早春季節の未だ來ない時に當つて蔬菜類を栽培するのを促成栽培といひ、胡瓜・茄子の如きものを十月から一月の間温床に播き一二月頃から四五月頃迄順次採收するものである。古より『初物を食すれば七十五日生き伸ぶ』の諺があるやうに初物

は大に珍重せられるもので、文化の度の進むに従うて人々の嗜好は益々發達し、自然の氣候の下に産する初物ばかりでは飽き足らず、促成蔬菜の需要は近年頗る増加した。しかし促成栽培は天然の氣候に反して人工の高熱を供給し作物を栽培するものであるから、やゝもすると天候の影響を受けて失敗に終ることがある。又たとへ天候が適順で栽培に成功し收穫が多きとも、その栽培の時期如何によつては需要が少なく、従つて價格は安く收支償はないことがある。それ故に促成栽培を行はんとするものは、常に市場の狀況に精通すること共に、その栽培技術を研究することが肝要である。

#### 温床

温床は特に人工により温熱を供給する苗床で、その熱源としては普通醗酵熱を用ひるが、亦温泉を利用したり火熱・蒸氣熱を用ひることもある。温床はその構造によつて高設温床と低設温床との二つに分ける。従來多くの農家の慣用してゐる甘藷床の如きは高設温床で、藁圍の他、壁、又粘土圍がある。



低設温床

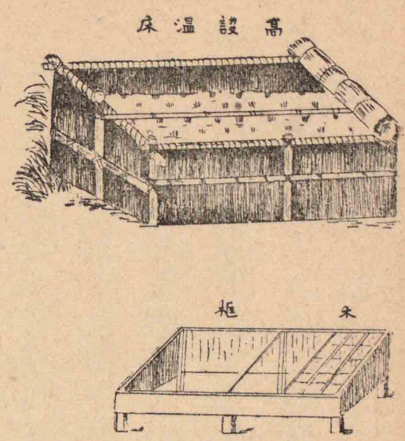
日當りのよい南面の地を選び普通幅四尺長さ二間に土地を區劃し、深さ二尺前後に穴を掘り底をカマボコ形にし、これに一尺五寸内外醸熱材料を踏込み、二間に四尺（長さは色々である。）の木框又はコンクリート。煉瓦。壁。粘土。藁等で圍をし、醸熱物の上に肥土（田土五堆肥四砂一の割合）を一寸五分乃至四寸位入れ、その上に播種又は移植定植を行ひ、硝子障子又は油障子を以て覆ふのである。

醸熱材料

四尺に二間の一框に對し

約一ヶ月間二十二三度の熱を保たしめるのに要する材料

イ、紡績屑 四十貫



藁	二十貫
水	一石五斗
口、新鮮厩肥	百貫
藁又木葉	十貫
米糠	二斗
ハ、藁	四十貫
水	四斗
米糠	四斗
木葉	五貫
人糞尿	一石五斗

醸熱材料は氣候の寒暖や作物の種類などにより適宜加減せねばならぬ。

踏込み

右の材料を踏込みまんに温暖な日を選び、底に温熱の脱出を防ぐ爲め二寸位の厚さに落葉又は藁を踏固め、この上に、右の材料を三四回に分つてむらなく踏込み、毎回一樣な濕氣を與へる爲めに水又は人糞尿を撒布する。この際踏込み加減が大切である。か



うして四五日間密閉し置く時は、甚しく發熱するから再び十分踏固め用土を入れる。

**管理** 温床の管理上最も大切なことは温度の保持・灌水・通風の三つである。温度を保つ爲めには夜間及び雨天の日には苫・菰等の如きを覆ひ、床温の低下を防がねばならぬ。灌水は温床管理上注意すべき事項で、よく晴れた日の午前中（十時頃から）に行ふがよい。通風は床内の濕氣及び炭酸瓦斯を發散し、且つ温度を調節するのである。一般に床内に於て高温多濕に保たれた幼苗は、徒長して柔軟虚弱に陥る傾きがあるから、快晴の日は出来る丈け障子を開き床内の乾燥をはかり强健な苗の養成に努めねばならぬ。

促成栽培を行ふ蔬菜の種類は胡瓜・茄子・蕃茄・南瓜・菜豆・草苺などで何れも數回移植を行ひ、苗の適當に太つた時定植するのである。一度つくつた温床の熱は三四週間しか保てぬから、順次新たに温床をつくり移植定植する。

### 採 收

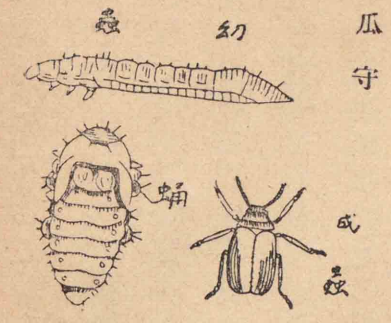
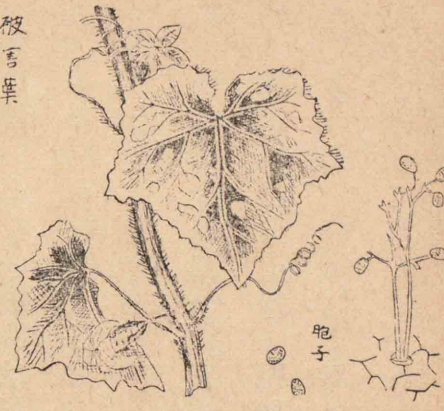
採收期は播種期並に品種の早晚等によつて差があるけれども、概して播種後七八十日位引續き收穫し得られるもので、花謝して後二週間目頃より始め、後四五十日位引續き收穫し得られるものである。一番成は顆のあまり太らない時早く收穫して、株の勢力を衰弱せしめないことが肝要である。然る時はその後の成長が良くて結果の多いものである。早生の二番成後及び中生晩生の品種は、顆の黄變しない限りは肥大せしめて收穫するがよい。一株より十五六本を得れば多き方で一反歩に對し通常七八百貫の收量がある。

### 病 虫 害

**露菌病** ベト病ともいひ瓜類の病害中最も恐るべき病で、特に胡瓜・南瓜・甜瓜等その被害大である。本病は降雨の多い場合、排水不良な土質で草勢虚弱通風不良な場合に最も多く發生する。その被害の模様は下葉より始まり順次上方に及び、遂に結顆力を失はしめるに至るのである。この病菌は葉の裏面の氣孔から侵入するもので、その被害部は始め淡褐色の斑點を生じ次第に擴がつて



擔子梗に胞子を著せる状



多角形をなせる黄褐色の斑點となり、遂に諸所の被害部相連接して全葉乾燥枯死するに至るのである。これを豫防するには常に勢力を盛にして置く事、未だ發生せざる以前から十日乃至二週間を隔て、三斗式ボルドー液を撒布する事である。

**瓜守** 瓜類の害蟲の中でもその被害最も著しく、而も驅除に困難なものである。成蟲は體長二分餘の長楕圓形の黄色の甲蟲で葉を喰害する。卵は粟粒大で瓜類の根元に産み付け數日にして幼蟲となり、幼蟲は地中に入つて根を害する。瓜守の驅除豫防法としては

早朝成蟲を捕殺するところが第一で、苗の時代には寒冷紗の類で覆ふ時はその害を防ぐことが出来る。又成蟲の産卵を防ぐ爲め根元に細砂を盛るか、ナフタリンを混入するも防止の効がある。尙麥の間作をなす時は豫防の効亦大である。

**蚜蟲** 幼苗期に發生が甚しいから、生育を旺盛ならしむるに共にこれが驅除に努めねばならぬ。

## 第二章 越瓜

### 用途

主なる用途は『ツケウリ』の名のある如く漬物であつて、鹽漬・味噌漬・粕漬等して廣く食用に供せられる。特に粕漬は奈良漬と稱して賞味せられる。  
**奈良漬** 先づ越瓜を縦に二つに割つて種子を含む果肉を去りこれに食塩を詰め一晝夜位軽い壓石をして漬け、之を取出して十分水氣を拭ひ取り樽底に食塩少量を散布し薄く粕を敷き其の上に瓜を切口を上向にして並べ瓜と瓜との間及瓜と樽との間並に果



内部に粕を詰め更に瓜の見えない程度に粕を敷く順次上部に達する迄反覆して口塩を施し蓋を打ち付け目張りをし、密封するのである。四斗樽一個に對し瓜十二三貫酒粕十二貫位を要する。

**鹽漬** 瓜を縦に二つに割り種子及び果實を出し、瓜一貫に對し食塩三百匁位の割合で漬け込み壓石を置く。

**味噌漬** 前の如く二つに割り種子や果實を去つたものに食塩を詰め二三日乾かした後味噌の中に入れて漬けるのである。

**噌** の皮を剥ぎ縦に二つ又は四つ割になし、小さく刻み塩で揉み和らげ水で洗ひ酢・醤油を注いで食する。

### 氣候土質

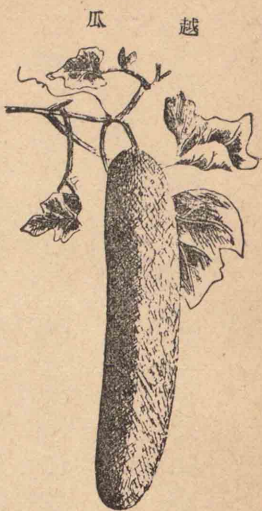
温暖で乾燥な氣候を好み、肥沃で適度に濕氣を有する壤土・砂質壤土・埴質壤土等が適する。殊に埴質壤土は結果期がながい。排水佳良なところはよいが、夏期乾燥に過ぎると生育を害するものであるから水分の不足は補はねばならぬ。

### 品種

越瓜にも種々の品種があるが、その主なものは次のやうである。

#### 早生越瓜

東京府北豊島郡板橋町附近の産で最も早生初夏の頃よ



り順次採收することが出来る。色は淡綠色小形、肉質柔軟で風味宜しく結果數も多い。

#### 大越瓜

東京市豊多摩區野方町の産が最も有名である。顆は大きな長圓筒形をなし果皮は淡綠色で外觀甚だ美、晩生で性强健豊産である。

#### 桂瓜

一名西京越瓜とも稱し京都府葛野郡桂村の特産である。顆は大越瓜より短大で果皮は綠色である。肉厚くてよく緊り奈良漬の原料として貴ばれ晩生で強健である。

### 栽培法

越瓜は運作するは宜しくない、少なくとも三年以上を経ざれば同一圃地に栽培は出来ない。前作は普通、麥であつてその間に栽培する場合が多い。然る時はこれが爲め風を防ぎ陽光を受けて地温の高まるばかりでなく、瓜守の豫防に効あるものである。



**種子** 黄白色で肥満し重量の重い新らしいものを選ぶべきである。

**整地** 播種前十日乃至二週間頃間作でない場合は普通の如く土地を打ち軟げ畦幅四尺株間三尺位になし、その部分に六七寸の穴を掘り元肥を施し土を覆うて置く。間作の場合には二畦毎に畦間の一部を耕して株間を定め元肥を施し土を覆ひ置くのである。

**播種** 氣候の寒暖や栽培の方法等により播種期に差があるけれども、本縣の如き暖地に於ては四月下旬頃直播するのが普通である。しかし早熟栽培を行ふ場合又は病蟲害の多い地方は、温床内に育苗する必要がある。越瓜の根は甚だ繊弱なものであるから、これを移植するには特に注意せねばならぬ。直播の場合には一箇所五六粒宛種子を播いて五六分の厚さに土を掛け、移植の場合には一箇所二本宛植ゑ、共に生草又は切藁の如きものを覆ひ表土の固結を防ぐのである。

**肥料** 堆肥・油粕等の如き窒素質肥料を最も多く施し、これに多量の木灰と過磷酸石灰とを加用する。その肥料の種類や施用法は胡瓜に準じて宜しい。

**手入** 直播のものは發芽後間引を行つて二本を残し、三回位中耕を行ふと共に追肥を施す。蔓一尺位に延びた時止肥を施し、最後の中耕として土寄せをなす。この際麥稈類を敷き雜草の發生を防ぐと共に、結果を安全ならしむることが必要である。

**摘心** 越瓜は甜瓜・南瓜等と共に側枝に結實するものであるから、摘心栽は培上最も大切である。その方法は本葉六枚位を發生した頃四枚目で摘心して四本の子蔓を出し、更に之を三葉で摘心して各二本宛の孫蔓を伸長せしめ、孫蔓は雌花の上部三節を残して摘心するときは七月頃から結果し始め二三週間で採收の期に達する。

**秋瓜栽培法** 胡瓜と同じく秋瓜と稱し六七月頃種子を播き、夏瓜に倣うて十分管理を行ふ時は九十月頃採收することを得相當の利益



を収めることが出来る。

### 採 收

早生で外皮に毛茸のある品種は多少毛を存し果の若い間に採收し、奈良漬用の如き晩生種は相當成熟し外皮が白味を帯びるやうになつて收穫する。收穫期間は七月から八月で收量一反歩につき五百貫内外である。

## 第三章 甜 瓜

### 用 途

甜瓜は肉厚くて水分に富み一種の芳香と甘味とを有し、生食用として西瓜と共に貴ばれるものである。甜瓜中西洋種の「マスキメロン」は歐米では廣く温室栽培を行つてゐるが又露地にも栽培せられる。近時本邦でもこの栽培漸次盛になりその促成品は特に高價である。

### 氣候土質

温暖で乾燥な氣候に適し、排水良好の砂質壤土又は壤土に良品を産する。これに反し排水不良の地は病害の發生が多い

ばかりでなく品質不良である。

### 品 種

**梨 瓜** 一名白皮甜瓜ともいひ、支那の原産で近來各地に栽培せられるやうになつた。性强健豊産類は長圓果皮滑で熟すれば果皮黄白色を呈し、果肉は白色で脆軟水分に富み風味佳良である。

**銀甜瓜** 一名青髭瓜とも稱し、類は長圓で綠色を呈し縦に白い條がある。肉は淡綠色で味梨瓜に劣るも豊産である。

**棗 瓜** 果は卵形小さく、梨瓜に似て居るが臍なく皮薄く黄金色で肉は白く質脆軟甘味強く性强健豊産である。

**マスキメロン** 西洋甜瓜のここでの中には澤山の品種があるが就中「ハーネージユ」「ロッキーフオード」「ハツケンサツク」等は少し注意すれば露地でも栽培し得られる。温室温床用としてはサツトンス・スカーレット・アールスフエーボリツト・エメラルドゼム等がある。



### 栽培法

#### 播種

甜瓜は越瓜や西瓜と共に移植を忌むから、普通四五月頃麥の間に直播するものであるが、早採を行ふには温床内で三寸鉢に播種して苗を育て、適當の時期に本畑へ移植することもある。

#### 距離

畦幅四尺株間三尺の距離に穴を掘り元肥を施し、一箇所十粒位播き付け三分位の厚さに土を覆ひ、その上に切藁を置いて乾燥を防ぐ。

#### 手入

發生後は間引を行うて一株一本こなし、人糞尿を施してその生長を促し、又時々中耕除草を行ひ蔓の伸長するに従ひ越瓜の如く麥稈類を地上に敷き藁の汚れないやうにする。

#### 摘心

甜瓜は側枝に結實する性があるから摘心を行ふ。その方は本葉三四枚を生じた時先づ三葉を残して摘心し、二本の子蔓を發生せしめ、その蔓が延んで五枚の葉を生じた頃四葉を残して摘心し、各枝に四本宛の孫蔓を生ぜしめる。

### 採收

甜瓜の收穫は七八月の頃で、落花後四十日内外を経てよく成熟したものを採收する。一反歩の收量は普通四五千本内外である。

## 第四章 倅人瓜

### 原產地來歴

原名チャヨーテと稱しメキシコ及び中央亞米利加の原産で、これ等地方の主な食用作物の一つである。我が國では大正六年鹿兒島縣人矢野氏が始めて米國から持ち歸り試作したのを始めとする。

### 用途

類は外皮を剥ぎ種子を除き刻んで酢揉にする時は、肉質緊り齒切よく越瓜の代用として有望である。塩漬・粕漬として越瓜に似、サラダ、葛かけ、油煮或は天麩羅として美味である。



**氣候土質**

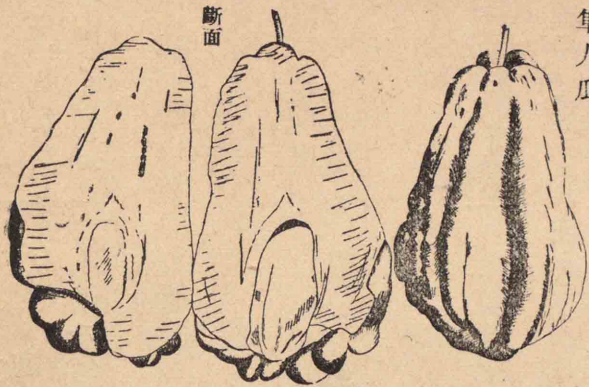
最も高温を要し表土の深い砂質壤土に適し、生育期間甚だ長く我が國では十月以後に至り漸く採收が出来るものであるから、十一月下旬頃迄降霜のない温暖な地方に適する。

**栽培法**

**播種**

三月中旬頃一畝をその儘温床に播付け果梗

準人瓜



を上にし斜に半分位埋めて發芽せしめ、四月下旬頃苗の七八寸に伸びたものを植付ける。此の間灌水は成る可く節し特に發芽前は少くする。温暖な土地では四月上旬露地に播付けても發芽し、良く生育するけれども結果數は温床で育てたものには及ばない。

**植付** 蔓が極めて長く伸びるから三

間乃至四間四方位の棚作りとする。

**肥料** 多くの肥料を要するけれども

遅く迄多量の窒素分を施す時は、蔓が徒長し結實期が遅れるから八月以後に追肥を施さないやう元肥に多く施す。

**摘心** 孫蔓以下でなければ結實しないから、發芽後四五節の所で第一回の摘心を行ひ三本の子蔓を伸長せしめ、地上四尺位で第二回を行ひ九本孫蔓をなし棚に上らしめる。摘心後生じた下部の側枝は切り去らねばならぬ。

**灌水及敷草** 根は地表近く擴るから初めに深く中耕し、根の伸びるに従ひ淺く耕し、乾燥地は梅雨後根周り一間四方位に厩肥又は青草類を厚さ二三寸に敷き、その上から極めて稀薄な人糞尿を一週間に一本につき一斗位宛灌水を兼ね施す時は生育を促進するに最も有効である。

**採收**

顆は落花後十五日乃至二十日位で十分の大きさに達するから、食用のものは鮮綠色を呈する時期に採收を行ふ。顆は白味を呈するに至れば硬くなつて品質を損する。一株二百乃至三百個一



個平均百匁位である。採收期は十月中旬から十一月下旬頃迄である。

## 第五章 南瓜

### 用途

我が國在來種は肉軟らかく品質佳良であるから煮食に供する外、米と共に炊煮して食することもある。外國種にはハッパードの如き優良な品種もあるが、概して風味劣り主として家畜の飼料に供せられる。

丸煮 早生小南瓜の如き小形のものを取り、蒂を付けて上部の肉を小刀で切り取り種子及び瓢肉を取り出し肉・胡蘿蔔・玉葱等を細に刻んで味を付け煮いたものを詰り込み、元の如く蒂蓋となしたけのこで縛り更にソースで煮て食する。

### 氣候土質

溫暖で乾燥な氣候を好む。然し過度の高温と強烈な日光は忌む。生育中降雨の多い時は徒に莖葉のみ繁茂しその結實を妨げるここが大である。殊に結果期や開花期の雨は最も忌む所であつて、結果期の雨は味を悪くし、開花期の霖雨は昆蟲の飛來を妨げ

るから、花粉の人工媒助を行はねば落果するここが多い。世人の所謂「南瓜は日照らさればよく結果せず」はこの間の消息をいひあらはしたものである。

土質はあまりに肥沃でない砂土乃至砂質壤土がよい。かゝる土質に於て肥料に注意し栽培する時は莖葉の繁茂を抑へ、結果力大で顆は大きくないが甘味に富み品質優良である。これに反し沃地に栽培する時は、莖葉徒長して結果少なく品質劣るを常とする。

### 品種

古くから栽培せられて居るから品種は頗る多い。主なるものを擧げると次のやうである。

早生小南瓜 一に會席南瓜ともいひ最も早生小形で二百匁以内である。肉厚く味美で收量も亦少なくないから各地に於て促成及び早熟栽培に供し多くの利益を擧げて居る。

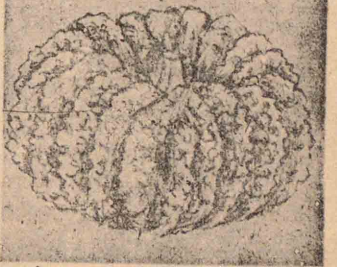
縮緬南瓜 東京市荏原區大崎町居留木橋の名産であるから居留木南瓜ともいうて居る。早生中形で顆皮に大小不定の瘤狀突起を密生



菊座南瓜



縮緬南瓜

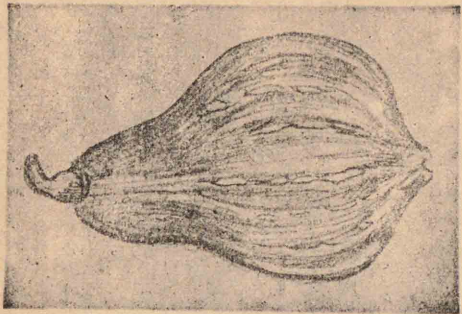


して居る。これ縮緬南瓜の名を生じた所以である。肉質緻密で甘味に富み品質最も優良である。

**菊座南瓜** 内藤南瓜又は淀橋南瓜ともいひ、東京市豊多

摩區淀橋及び中野地方の特産である。縮緬より熟期稍々遅く中形顆面は平滑であるが縦溝が深く菊座をなして居るからこの名がある。成熟するも顆皮の硬化すること少なく貯蔵に堪へ風味も佳良である。

**ハツパード** 米國産で北海道及び東北地方に多く栽培せられる。晩生で顆形紡錘状をなし顆皮暗綠色で滑である。肉質緻密糖分に富



ドーパツハ

み美味である。頗る豊産で貯蔵に堪へる。尙早生黒皮種、甘栗種等有望である。

**栽培法**

南瓜の栽培には直播法と移植法との二つあり直播法は手数はあまり要しないが結果遅く収益を得ることが少ないから、近年次第に移植法により苗床を利用して育苗するものが増加しつつある。

**苗床** 早熟栽培を行ふ時は温床を利用するけれども、普通栽培の場合には温暖な位置に設けた冷床内に播種するのである。播種の時期は温床にあつては三月上旬、冷床にあつては三月下旬頃を以て適當とする。播種後一週間内外で発芽するから、温床に播いたものは発芽後本葉を發する以前に四寸平方の距離に他の床に移植し四月中旬頃に更一二回假植を行ひ本葉四五枚を生じた頃本圃に植付け、冷床に播付けたものは同下旬頃植付け。

**整地** 南瓜は麥の間に栽培することが多いから、普通の如く丁



寧に整地を行ふもの少なく畦間のみ耕すことが多い。その前作としての麥は東西の方向に條播し、南瓜を麥の南側に植ゑる時は、北風を防ぎ且南面から陽光を受け地温を高めるの利益がある。畦幅は品種や土地によつて異なるけれども、普通六尺乃至八尺株間は二尺乃至四尺位とする。

**植付け** 瓜を植付ける箇所には整地の際豫め直徑一尺深さ五寸位に孔を掘り、この中に多量の堆肥・油粕・過磷酸石灰・木灰の如き元肥を施し、更にその上に二寸位の厚さに土を覆ひ、成るべく雨後又は夕刻に淺く植付ける。

**肥料** 今一反歩に對する施肥の標準量を示せば次のやうである。

堆肥	百五十貫	窒素	三貫五百匁
油粕	六貫	磷酸	三貫
過磷酸石灰	十貫	加里	二貫五百匁
木灰	十貫		
人糞尿	二百五十貫	(内、追肥百五十貫)	

**手入** 植付け後苗の成長につれ二三次中耕を行ふと共に追肥を施し、且つ蔓の下に麥稈の類を敷く。敷藁をなす時は蔓の地面に接して節部より發根し莖葉の過度に繁茂するを防ぐばかりでなく、雑草の繁茂と土壤の乾燥を防止又病害等によつて果の腐敗するのを豫防することが出来る。

**摘心** 南瓜の栽培中最も注意を要するのは摘心である。直播・移植何れの方法によるも發芽後本葉數枚を發生すれば、五枚目にて摘心し最下の一本を除いて四本の蔓を伸長せしめる。元來南瓜は草勢が強いと實がつかぬから結果を促す爲め雌花の着いて居る節から二節程上で摘心を行ふのである。

**花粉の人工媒助** 降雨の際は花に雨水の入ることや、昆蟲の飛來を妨ぐる爲め、受粉せずして落果するものが少なくない。かゝる際は花粉の人工媒助を行はねばならぬ。これを行ふには朝の間に於て雄蕊を取り、雌蕊の柱頭にその花粉を接觸せしむるのである。



**落顆の原因** 南瓜栽培上最も困るのは落果の多いことである。その原因は色々あるが

**一、草勢が強すぎる**

勢力が強いと養分が莖葉に集つて顆を養はないから落ちるものが多い。この場合には實が茶碗位の大きさになつて落ちる。

**二、受粉せざること**

時期が早いとか雨の降つて居る時は、花粉を運ぶ所の昆蟲が来ないから何れも受粉せぬので落ちる。この場合は花が開いて二三日後に落ちる。

**三、勢力弱きこと**

勢力が弱いと花の咲く力がなく蕾の時落ちる。蔓の先の方のものは大抵これで駄目である。

**落顆を防ぐ法** 落顆を防ぐことは南瓜栽培上大切なことで、これにはその勢力を抑制することが第一である。その方法は色々あるが

摘心の外に株元から出る無駄蔓や重り合ふ孫蔓を除き、更に次の注意を必要とする。

**一、土質**

よく乾燥する軽い中肥の土地がよい。

**二、品種**

晩生種は兎角蔓が出来すぎるから早生・中生を選ぶがよい。

**三、距離**

栽培距離を廣くして蔓の纏絡を防ぐがよい。

**四、肥料**

凡ての作物は莖葉の繁茂の烈しい時は結果力劣り、その稍衰弱する頃に初めて結果力を増すものである。南瓜はこの現象が殊に著しきものであるから、豊産を計るには施肥法に注意せねばならぬ。施肥の原理としては『蔓を瘠せしめて實を留め實留まりて蔓を太らす』にあるからこの點によく注意せねばならぬ。



**採 收**

早熟栽培のものは六月頃濃綠色に變じた頃採收する。時期の早い程高價に販賣することが出来るから、適當の時期を失はないやうにせねばならぬ。普通栽培のものは七月頃から果皮に多少白粉が出来る様になつてから採收する。しかし九月以後迄のこす時は、結果はするも所謂未成で品質劣等である。收量は品種栽培法等によつて異なるが平均反當六百貫位である。

第六章 西 瓜

**用 途**

西瓜は極めて水分に富み甘味が多いから、夏期炎暑の候世人に歡迎せられて居る。生食する外ゼリーを製し、又腎臟病藥として西瓜糖製造にも供せられる。

生 食 種子を去つて瓢肉のみとなし、これに砂糖や氷を掛け匙で食する。味頗る美である。

西瓜糖 西瓜の瓢肉より汁を搾り取り、鍋に入れて十時間位煮詰め水飴状となつた時、瓶に藏め密封する。腎臟病の藥として効著しい。

**氣候土質**

熱帯地方の原産であるから温暖で乾燥を好む。夏期降雨少なくて温度高き時は、その發育旺盛で美味なものを豊産するけれども、これに反する時は大抵病害を發生し結果力を減ずるのみでなく品質も亦不良となる。實に降雨は西瓜栽培上の大敵である。「南瓜は手で作り。西瓜は土で作る」といはれて居る位によほど土質を選ばねばならぬ。西瓜に最も適するのは排水良好な砂質の土壤である。粘濕な土地は不適當で若しもかくの如き地に栽培する時は、たごへ結果するも外皮厚く甘味が少ない。これに反し海岸の砂地は成熟早く甘味に富む。

多量の水分を要するから近時水田に高畦を設け之に栽培し溝によつて灌排水を調節する法が盛になつた。

**品 種**

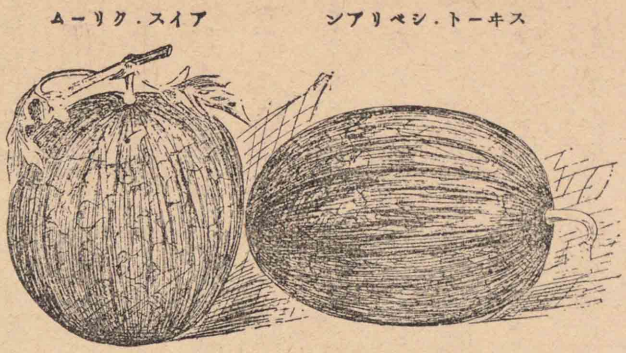
大 和 奈良縣で造つた品種で各地に栽培され、栽



培容易、品質優良輸送に耐へ早中晩の三種あり果は概して中形でアイスクリームに似て居る。性强健頗る豊産である。近來新大和、大

和黃肉等の改良種も出來て居る。

**アイス、クリーム** 米國種で早くより我が國に傳はり西洋白西瓜と稱し、各地に廣く栽培せられる。中生で顆は大、球形を呈する。果皮は殆んど白色で僅かに淡綠色の條紋がある。肉は淡紅色で甘味強く水分に富む。種子は白く豊産で我が風土に適する優良種である。



**スビット、シベリアン** 露國種で早生である。低溫度に堪へる力が強いから寒地に適する。橢圓形で外皮は濃綠色を呈し斑紋を有する。瓢肉橙黃色で種子は褐色である。多漿で甘味頗る強く收量も亦少なくない。

**嘉寶** 支那種で最近輸入せられ皮極めて薄く肉橙黃色一顆四百匁位の長橢圓形の小顆である。極早生で促成栽培に適し露地にも作られ高等食卓用として貴ばれる。

**栽培法** 忌地性 瓜類の多くは多少忌地性あるもので、毎年同一の地に作る時は生育の悪いものである。殊に西瓜はその性著しく六七年を経ざれば十分に生育しない。

**育苗** 西瓜は胡瓜・南瓜などに比べると細根の發達不完全で移植することが甚だ困難であるから、多くは直播を行つて居る。しかし特に早く産出せしめやうとする場合や、害虫の害を受け完全に發育しがたい場合などには、豫め苗床で苗を育成せしめねばならぬ、かくの如き場合は小さき素焼の鉢に二三粒宛播き温床内で育て、移植し易からしむることが大切である。

**播種期** 直播は四月上旬頃温床播は三月中旬頃である。

**整地** 本圃は胡瓜・越瓜・南瓜等の如く麥畦の間に石灰、木灰を



散布して整地をなし、六尺乃至八尺の距離とし四五尺の株間を保ち、直徑一尺四五寸の穴を掘り堆肥・油粕・木灰などの元肥を施し土を覆ひ置く。一月頃から田土・木灰・鶏糞・大豆粕・綿實粕・過磷酸石灰等を混し堆積して作つた肥土を元肥の代に用ふるこ非常によい。種子は一株四五粒宛播付け切藁などを掛けて乾燥を防ぐ。

**肥料** 西瓜は肥料を要すること甚だ多く、その種類は品質に關係すること大である。下肥を多く用ひると味が旨くない。油粕を施した西瓜は形が大きくて肉色が赤く水分も甘味も多くなる。練粕で作つた西瓜は甘味は多いが色が淡い。故に油粕・練粕・過磷酸石灰・米糠のやうな肥料を配合して施せば甘味を増して品質を良くする。何れの場合にも元肥を多く施すこ根が傷むから、蔓が伸び出して後六月下旬頃迄に三回位に施す。

今一反歩に對する施肥の標準を示せば次のやうである。

堆肥 二百貫 窒素 三貫九百匁

油粕 二十貫 磷酸 三貫二百匁  
過磷酸石灰 十貫 加里 二貫五百匁

木灰 十五貫  
練粕 十貫 (追肥)  
人糞尿 二百五十貫 (内、追肥百五十貫)

**瓜守豫防** 幼苗期は瓜守の蝕害を蒙ることが甚しいから、普通麥の間作とし、麥は成熟期に穂だけ播み取り稈はその儘とし蔓の相當伸長せる時稈を引いて敷藁を用ひる。又麥の無い時は豫め寒冷紗なごを被うてこれを防ぎ又諸種の毒劑(例へばデリス石鹼液)を撒布する。結果期には幼蟲が根部に寄生して枯死せしめることがあるから、根元に砂盛りをし又は時々毒液を滴下してこれを防がねばならぬ。

**病害** 恐る可き病害は蔓割病と炭疽病である。

**敷藁** 蔓の伸長するに従ひ地面に麥稈を敷き、雜草の發生と土地の乾燥を防ぎ且顯の病蟲害を豫防するやうにする。

**摘心** 一般に西瓜は摘心を行はないのであるが、集約に栽培せ



んには少々狭く植ゑて本葉數枚を生じた時に摘心して側枝を出すこゝ、  
顆は小さいが早く出來て多く生る。

**人工媒助** 朝の中に雌花を傷めぬ様媒助し後三四日間花覆をする  
こよい。

**玉直し** 顆の直径三四寸の時其の横向のものは蔓口を上に向はし  
める。これは形を正しくする上に於て必要な手入である。これをな  
すには常に成蔓を以てし、決して顆面に手を觸れてはならぬ。

**採收貯藏**

採收の適度を知るには

- イ、下部の白い部分が稍黄色を呈する。
- ロ、下部の果皮薄き部を押すと弾力を感じず。
- ハ、顆の横側をたゞきその音で判断する。
  - 未熟、カンカン
  - 中熟、コンコン
  - 適熟、トント
  - 過熟、ボンボン
- ニ、更に日數では開花後七月は四十日、八月は三十三四日位を標

準とする。

ホ、又果梗の茸毛殆んど消失し且結顆節に生じてゐる卷鬚が枯れ  
かけてゐるなどは何人にも判断出来る有力な方法である。

收量は反當六百貫内外である。

西瓜を貯へるには

- イ、晩生種を選ぶこと。
  - ロ、一貫内外の外皮の厚い無病なのを選ぶこと。
  - ハ、晩く蒔いて少しく早く採收すること。
  - ニ、地下室の如き低温な場所に貯藏すること。
  - ホ、顆は藁製の輪の上に載せること。
  - ヘ、貯藏中決して手を觸れないこと。
- 場合によつてはその半數位腐敗することがあるが残つたものは意外の高價に賣れ利益  
あるものである。



### 用 途

茄子は古より最も貴重せられる夏の野菜で、或は煮食し或は漬物に供するなど用途も頗る廣い。

**淺 漬** 小なものはその儘大きなものは二つに切り、茄子十個に對し食鹽五六勺の割合で撒布し、これを反覆して壓石を置く時は四五日で食することが出来る。

**芥子漬** 小茄子を豫め塩漬にし、芥子粉を少量の水で捏ねて置き、これに麴と醬油を加へたものを混じて壺の中に漬け込み目張りをして貯へる。

**粕 漬** 小茄子を二三日塩漬にし一日乾かし、粕一貫に對し塩三合を混じて捏ねたものゝ中に漬け込み軽い壓石を置き一二月の後食する。

**味噌和** 味噌を摺りながら少し砂糖を加へ蒸した茄子を混じて食する。

**焼茄子** 茄子を全形の儘熱灰中に埋め軟かになる程度に焼き、水で洗ひ適當に裂き摺胡麻・砂糖・食鹽で和へる。

**油 煮** 茄子の皮を剥ぎ縦に二つに切り暫く水に入れ、後取り出して水氣を拭ひ、胡麻油で両面とも焦げ付く程煎り付け食鹽・胡椒を振りかけ、煮出汁で軟くなる迄煮て食する。

### 氣候土質

茄子は最も高い温度と日照の多いのを好む作物である。草勢甚だ強健であるけれども過濕と乾燥には甚だ弱いから、旱天の續く時は灌水の必要がある。

土質は有機質に富み肥沃で排水のよい壤土若くは砂質壤土に適する。重粘土は旱魃に際しては龜裂を生じ、又降雨期には著しく地下水停滞し過濕に失するの恐れがあるから不適當である。殊に茄子は忌地及び酸性に弱いから適地の選擇に注意を要する。

### 品 種

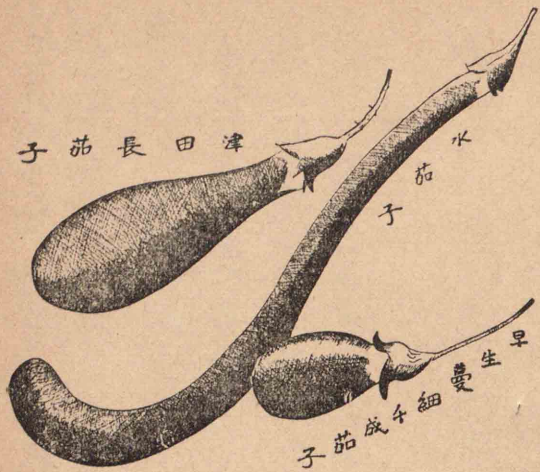
熟期の早晚や形の長短等により種々の品種があるけれども、その主なものを擧ぐれば次のやうである。

**早生蔓細千成茄子** 茄子中の最も

早生なものでその名の如く枝葉細く且枝は多く分岐してよく結果する。促成用として適する品種である。

**橋田茄子** 早生種で類は濃紫色を呈し早熟栽培に適する。

**津田長茄子** 島根縣の産で長形の





中生種である。肉緊り種子少なく味がよい。漬物として適する。

**佐土原長茄子** 中長の品種で勢力旺盛良く結顆する。本縣始め各地に多く栽培せられる中長種は本種の系統に屬するものである。

**巾着茄子** 關西地方に多く栽培せられる晩生種で、莖太くて分岐力強く顆は横に少し平たく縦に襲があつて恰も巾着のやうな形をして居る。豊産であるが少し種子の多いのが缺點である。煮食用としてよい。

**水茄子** 支那の産で顆は細長く一尺餘に達する。顆は帶赤紫色で光澤あり品質稍々劣るが、短く切り鹽揉みこして淺漬にすれば美味である。

**栽培法**

茄子は胡瓜と共に年中その需要が絶えないから度々播種を行つて常にこれが供給をなすつゝある。

一、促成栽培	播種期	定植期	採收期	假植回数
	九月中旬	十二月下旬	二月上旬 五月下旬	四回

二、同	十一月下旬	二月中旬	四月上旬 六月下旬	三回
三、早熟栽培	二月上旬	四月上旬	五月下旬 八月下旬	二回
四、普通栽培	三月上旬	五月上旬	六月下旬 十月下旬	一回

**育苗** 促成及び早熟栽培に於ては一二月頃温床に播種して三回位假植して苗を育てる。普通栽培にあつては成るべく温暖な場所を選んて苗床を設け寒風を防ぐ装置をし、幅四尺長さ適宜に區劃を付ける。播種は三月上旬頃で一反歩に要する種子量は約一合、播床は一坪位を要するものである。發芽後は不良な苗又は密生した苗を間引いて丈夫な苗の育成に努めねばならぬ。

**本圃** 茄子は連作を忌むものであるから、少なくとも三四年間は同一地に植付けしてはならない。又畑地は風害・霜害等を防ぎ、苗を保護する爲め豫め麥類を栽培し置くのが便利である。

**整地** 胡瓜等の如く水田に麥の間作として栽培する場合には畦の一部分のみを耕し、然らざる場合には丁寧に整地を行ひ畦幅三尺



乃至四尺株間一尺九寸乃至二尺位とする。その定植すべき個所には豫め元肥として多量の堆肥・油粕・過磷酸石灰・木灰の如きを混合して施し更に人糞尿を與へて置く。

**植付け** 早熟栽培では、苗の七八葉が出て一番花が現れた四月下旬頃、普通栽培の場合は五月上旬頃の成るべく温暖無風の日を選び、豫め苗床に十分灌水し置き根によく床土を附着せしめて抜き取り丁寧に植付け根元を壓付けて置く。植付け終れば灌水し日中は藁帽子で日覆をなし活着後これを除く。

**肥料** 茄子は肥料を多く要する作物で、若しも肥料が缺乏すると結果少なく品質も亦不良となるものである。各種の肥料中油粕は最も有効で、これを施したものは果肉柔軟となり果皮の色澤も亦鮮麗なものが得られる。その他人糞尿等の如き窒素分を用いたものは一般に品質優良である。これに反して米糠等の如き磷酸分に富む肥料を多く施したものは、種子が多くなつて食味を損するばかりでな

く果皮硬く色澤も亦不良となる。されば茄子の肥料としては窒素分が最も大切であつて、加里分これに次ぎ、磷酸分は比較的少量に施してよいものである。

今一反歩に對する施肥の標準量を示せば次のやうである。

堆肥	三百貫	窒素	三貫五百匁
油粕	二十貫	磷酸	三貫五百匁
過磷酸石灰	十貫	加里	四貫五百匁
木灰	四十貫 (追肥十貫)		
人糞尿	四百貫 (内、追肥三百貫)		

**手入れ** 植付け後は數回中耕除草を行ふと共に補肥を施し、風害の恐れある地方に於ては定植後一週間位で支柱を立てねばならぬ、又乾燥を防ぐ爲めに敷藁をし、旱魃に際し水利の便ある所は時々畦間に灌水する必要がある。

**整枝** 茄子は最初の三枝を生ぜしめこれを主枝となし、その後は自由に成長せしむるものである。この三主枝以下に生ずる枝は摘



除するのが普通である。かやうな枝は勢力弱く結果が少ないばかりでなく、その類は日蔭になる爲め色澤不良で優品を産せないからである。

**更新法** 八月中旬頃類を全部採收し、衰弱した古枝を半分位に切り縮めて强健な新芽を出さしめ、濃厚な下肥を施し常に灌水を行うて乾燥を防ぐ時は、一ヶ月後再び結類し優良な秋茄子を採收するところが出来る。

**採 收**

促成栽培によるものは三四月頃から市場に現はれるけれども、普通は六月下旬頃から十月位迄採收する。茄子は最も光澤を尊ぶものであるから、成るべく早朝の間に採り、又相當の大きに達したならば成熟の時期を過ぎないやう注意せねばならぬ。若しも熟期を過ぎ外皮は粗硬となり種子は充實して味悪しく、加ふるに株は衰弱して生育が遅れる不利がある。一反歩の収量は普通五六百貫乃至千貫位である。

**病 虫 害**

**立 枯 病** 俗に「コロリ」と稱し茄子栽培地に於て最も普通に發生する病害である。發病期は多く苗床時代の本葉の將に開

立 枯 病



かんごする頃で、この病に侵されたものは莖の地面に接した部分が縊れて細くなり終に倒伏枯死するに至るものである。

**青 枯 病**

結果期に至り急に日中萎凋し夜間又は雨天の時のみ數日恢復し、その後は晝夜とも恢復せずして萎凋し遂に枯死するに至るのである。これ等の病害を豫防するには連作を避け排水をはかり、苗床の土は年々新らしきものを用ひ木灰・硫黄等を撒布し、定植の際は根元に一握りの木灰を施し、被害株は抜いて焼き棄て同時に被害地は木灰又は石灰を施して消毒しなければならぬ。若し古土を苗床に使用する場合にはホルマリン・石灰硫黄合劑・石灰窒素等で消





毒するところが肝要である。

**偽瓢蟲** 一名二十八星瓢蟲ともいひ、茄子の害虫中被害の著しいものである。幼蟲・成蟲共に葉を蝕し爲めに草勢大に衰へ結果力を減するものである。これを驅除せんには努めてその成蟲を捕殺し、或は葉裏を検して卵塊及び幼蟲を潰殺せねばならぬ。

**根切蟲** 地下一二寸の所に捲曲して棲息し、夜に至れば地中から出て莖を根際より咬み切り枯死せしめる害虫である。これを驅除せんには茄子の根元に除蟲菊粉と木灰との混合物を撒布するか或は被害株を發見せば直ちに根邊を探し幼蟲を捕殺することである。この他蚜蟲・ダニ・根線蟲などの害虫がある。

## 第八章 蕃 茄

### 用 途

蕃茄はビタミンを澤山含み食物の消化を助け血液を新鮮にする等の効がある。一種の芳香と甘味とを有するも特別の臭氣を有するから味に慣れないものはこれを忌むけれども、一旦その眞味を解せば最も嗜好に適し、夏期果實の代用として最も貴ばれるものである。生果の儘又は食塩・砂糖などを付けて食し、酢漬とし或はソースを製す。

**生 食** 熟果を二三分間熱湯中に投じ外皮を剥ぎ輪切りにして食塩又は砂糖を付けて食する。又西洋料理のサラダとして重用される。

**三杯酢** 前の如く輪切りにしたものを、種子を出し少量の食塩を撒布し水で洗ひ三杯酢をかける。

**油 烙** 前の如く輪切りにしたものを油で烙め卵をかけて食する。

**トマトケチャップ** これは西洋料理として缺ぐべからざるものである。これを製するには熟果を沸湯中に投じて煮、軟になるを度とし取り出してよくおしつぶし、裏濾器にかけて外皮種子などを除き、濾し取った果肉と液汁とを鍋に入れて煮つめるのである。

**ジャム** 煮て外皮や種子を去りこれに對し四五割の砂糖を加へ文火にて攪拌しつゝ煮つめる。

**トマト・ピツクル** 最後に莖を倒す時未熟の果を利用し、薄く輪切にし葱頭の刻んだもの等と塩漬にし、其の絞つたものを酢・砂糖・カレイ粉・香料等で作つた汁に漬



けたものである。

**氣候土質**

溫暖で乾燥な氣候を好み適度に濕氣を有する表土の深い肥沃な壤土又は砂質壤土に適する。

**品種**

ボンテローザ

**ボンテローザ** 蕃茄中最大のもので結果期永く豊産の晩生種である。種子少なくソース用として第一である。

**テーブルクイン**

中生種で肉は軟く漿液に富む、品質香味共に宜しく生食に適する。

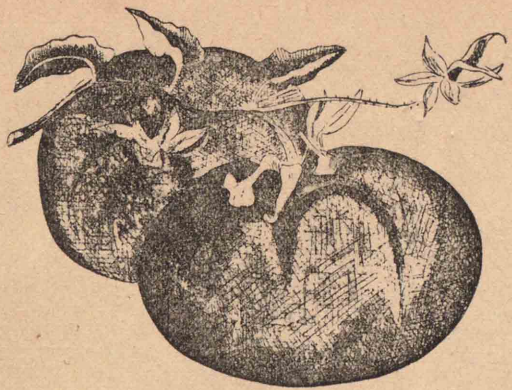
**アクム**

中生種で正しい扁圓形をなし美味である。生食又は料理用に適する。

其他早生種ではスパークスアリアナ。

プリンセスオブウエルズ。ゴールドク

イン。中生種ではベストオブオール。ヂュンピング。愛知トマト等



がよい。

**栽培法**

**育苗**

茄子と同じく多く温床を用ひるが茄子よりは低温で發芽するものである。三月上旬頃播種し發芽後は密なものを間引き本葉が一二枚生じた頃第一回の假植を行ひ更に本葉四五枚の頃第二回の假植を行ひ四月中下旬頃定植する。青枯病豫防の爲め畑地は五六年水田は三年目位に作るがよい。

植付整地等は茄子に準じて行ふべく、唯肥料は茄子に比し窒素分を減ぜねばならぬ。若し窒素分の多い時は葉莖過度に繁茂し結果力を減じ成熟を遅らしめる缺點がある。青枯病豫防の爲根元に木灰一握宛を施し株間には厩肥を敷いて乾燥を防ぐがよい。

**支柱**

主枝の伸長するにつれこれを支柱に導きその倒伏を防ぎ、陽光の透射・空氣の流通を良好ならしめねばならぬ。

**整枝及摘芽**

蕃茄は草勢甚だ旺盛で葉莖過度に繁茂し結果力を減ずるから、適度に整枝摘芽剪葉を行つて莖葉を整理し繁茂を抑へね



ばならぬ。整枝法に一本立二本立等がある。一本立の法は葉腋より出る側芽を悉く除去し一本の主枝を五六尺の高さに伸して結實せしめる。この法による時は一株に七八個の花枝を生じ一つの花枝に三四個結實せしめ他は摘果する。二本立の法は本葉七八枚を生じた頃摘心して二本の主枝を生ぜしめその後側芽を摘除して結實せしめる。六月に入れば時々ボルトー液を撒布して病害豫防をなすがよい。抑制栽培（六月下旬又は七月上旬下種九月上旬定植十月下旬から十二月まで採收）促成栽培等によつて週年栽培する事が出来る。

## 第九章 草 莓

### 用 途

草莓は初夏の候他の果實に先つて食卓に現はれ珍果として賞味せら

れる。主として生食するのであるけれどもジャム・ゼリー等の製造にも用ひられる。

**生 食** よく洗うて蒂を去り牛乳及び砂糖を加へるか、或は少量の食鹽を加へるか、或は焼酎やウキスキーを加へ攪拌して食する。

**ジャム** 熟果の蒂を去り水でよく洗ひ四五割の砂糖を混じ鍋に入れ攪拌しつゝ文火にて煮つめる。

**ゼリー** 蒂を去り水で洗ひ麻袋の如きものに入れおしつゝ瀘過しこれに寒天と砂糖とを加へ煮つめる。

### 氣候土質

殆んど氣候を選ばないが溫和冷涼の所を好み、又如何なる土質にも生育するけれども、特に表土の深い肥沃な壤土や砂質壤土に良品を産する。

### 品 種

**ドクトルモーレル** 早生で强健、品質佳良で味宜しく、極めて豊産である。

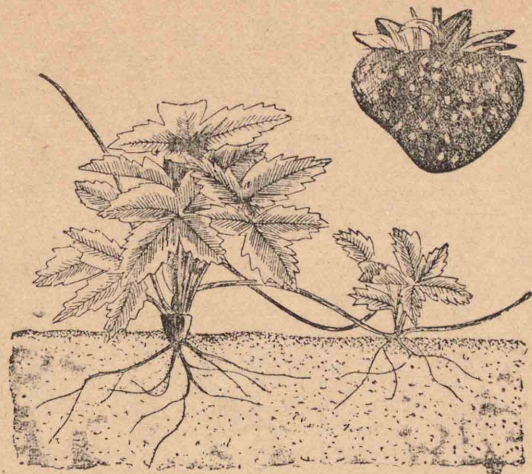
**モナーク** 莓中の最大顆で性強く香味に富み豊産である。

**ビクトリヤ** 漿液に富み豊産でジャム製造用に適す。病害に弱い缺點がある。



其他早生種ではゼネラルサンジ。福羽。中生種ではクラークス  
シードリング、エキセルシヨア。晩生種ではレーテストオブオール  
等がよい。

ドクトルモール



**栽培法** 苗の育成 苺は五六

月頃に至れば親株より多数の匍匐枝  
を出しその伸長と共に各節に苗を生  
じゝからその三節以内のものを切放  
ち苗床に養成する。かくて得た苗を  
九十月頃本圃に植付ける。

**植付け** 植付けの季節は春秋の二

季であるが秋植の方がよい。本圃は  
よく整地し條間二尺乃至三尺の作條  
を切り元肥として堆肥・油粕・過磷酸石灰・人糞尿等を施し八九寸の  
株間にし新葉二三枚を残し他を除いて植ゑる。

**手入** 毎年春季發芽前と夏期採果後に前の如き肥料を施す外、

開花前に至れば切藁の類を敷く。又初夏の候には母株より盛んに匍  
匐枝を發生し、爲めに母株の勢力衰へ翌年の結果力を害するから繁  
殖用の外は悉く除かねばならぬ。

**株の更新** 一度植付けした苺は年を経るに従ひ次第に收穫を減ず

るから四年目位で親株を掘り取つて植替へを行ふ。水田裏作には年  
々植替へる。

**採收** 熟し過ぎると腐り易いから完熟に先ち晴天の朝採收する

がよい。一反歩の收量は百二十貫乃至二百貫容量にすれば五石内外  
である。

**苺の促成** 豫め養成して置いた苗を秋に至り鉢に移して肥培し後

温床又は温室に入れて栽培する。

南面の傾斜地を利用して石垣栽培を行ふ時は利多きものである。



## 第十章

### 本縣に於ける蔬菜栽培の現在 及將來

本縣は氣候温暖で土質も亦蔬菜の栽培に適し今日では相當發達の域に達してゐる。就中松山市附近・宇和島市附近・今治市附近・西條・川之江町附近等では促成栽培・早熟栽培が相當發達してゐる。又喜多郡大洲町地方に於ける牛蒡・瓜類、温泉郡中島地方に於ける葱頭・薑、東豫地方に於ける里芋栽培の如きは相當有名である。之等蔬菜は縣内へ供給する外縣外へも盛に移出されてゐる。促成蔬菜は近來需要が増加したから都市に接した農家に於ては促成・早熟・軟化等の集約栽培を行ひ市場に供給するやうにすれば農家の副業として利益多く又勞力分配上から見ても面白い。蔬菜類出荷販賣についてはなるべく組合を組織し販賣の方法を改善し阪神・廣島・關門地方に販出するやうにすればその利益は決して尠くないであらう。

又一般家庭に於ても家庭園藝として蔬菜の栽培を行ふ時は、直接新鮮な蔬菜を得られるばかりでなく、家庭の生活に興味を生じ自治勤勉の美德を養ひ身體の健康を増進し、引いては家庭の圓滿となり一家の幸福を得られるものである。

されば何れの方面より見るも、爾今一層蔬菜の栽培法を研究し、品質優良なものを生産すること共に、販賣方法出荷統制等に十分の考慮を拂はねばならぬ。



農業補習 蔬菜編 下卷 (終)

附錄一

本縣に於ける蔬菜統計 (昭和六年)

種類	作付反別	收穫高	價格	主產地 (價格による)
甘藷	八九・三四 <sup>反</sup>	二六・五三・二六 <sup>五</sup>	一・三七五・九五 <sup>円</sup>	北宇和越智西宇和
馬鈴薯	五・二四	一一・二・九五	二二・一九五	温泉上浮穴伊豫
生蘿蔔	一七・九五	一〇・七〇・二・九四	五〇〇・三四八	越智温泉北宇和
切干大根	—	五九・八七	二〇・六九	北宇和西宇和東宇和
蕪菁	二・〇六一	七四・三九二	五八・五五四	越智温泉北宇和
胡蘿蔔	一・〇七〇	二八・〇一五	四四・三四	温泉越智西宇和
牛蒡	三・二〇二	九四・二六一	一四・六二五	越智温泉北宇和
青芋	二・五三三	五・二九・五三三	六四・三九	宇摩温泉新居
葱頭	二・七五八	一・三九五・一七三	一一〇・七〇	温泉伊豫西宇和
葱	一・七九	四五・三・四四	五六・九七	越智西宇和北宇和
蓮根	六〇二	二五・九三	七七・八四	温泉伊豫松山
漬菜	三・八三六	一・二五〇・三七四	九〇・六八	越智温泉北宇和



ト マ ト	茄 子	甜 瓜	西 瓜	南 瓜	越 瓜	胡 瓜	甘 藍
二〇四	三・四六	一一一	六・四三	二・六八一	九六五	二・三六七	六九七
七四・三三〇	一・三六六・九一〇	四七・〇五〇	二・八七一・七三六	八九・四六五	三三四・一五七	八六一・三七七	三〇一・二四
一・一〇、 上	一五、 上	二五、 上	二	一四、 下	二	二	一四、 下
一	二	三	二	二	二	二	三
二、四、 五	二、七、 一〇	五、六、 一〇	二、七、 九	二、七、 九	二、七、 八	二、七、 八	三、六、 八
二〇〇	一〇〇	一〇〇	七〇〇	一〇〇	五〇〇	八〇〇	七〇〇
三、五〇〇	四、〇〇〇	五、五〇〇	三、九〇〇	三、五〇〇	四、〇〇〇	四、五〇〇	四、五〇〇
三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、五〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇
開花前葉を敷く 枝を除く	一二回假種を行ふ 芽肝安	根元の腋芽を除く 多くの肥料を要す	移種困難 直播する 守の豫防	摘心して 四本出す 稗を敷く	越瓜に同じ	度々摘心を する瓜守 の豫防	早熟栽培が利益が ある

附録二

蔬菜栽培一覽表

草 苺	蕃 茄	茄 子	西 瓜	南 瓜	甜 瓜	越 瓜	胡 瓜	種 類 名
同	同	砂質壤土	同	砂質壤土	同	砂質壤土	壤土	土質
連作	五	八	八	連作	五	五	三年	休 裁 年 限
二、〇	三、〇	四、〇	八、〇	八、〇	四、〇	四、〇	三、〇	畦 幅 尺
〇、八七	二、〇	二、〇	一、五	五、〇	二、五	三、〇	二、〇	株 間 尺
九、上	一、〇	一、〇	五、〇	三、〇	二、五	二、五	二、五	反 當 播 種 種 子 期 月
一	一五、 上	二五、 上	二	一四、 下	二	二	一四、 下	間 引 定 植 期
一	二	三	二	二	二	二	三	中 耕 回 數
二、四、 五	二、七、 一〇	五、六、 一〇	二、七、 九	二、七、 九	二、七、 八	二、七、 八	三、六、 八	追 肥 回 數
二〇〇	一〇〇	一〇〇	七〇〇	一〇〇	五〇〇	八〇〇	七〇〇	反 當 收 穫 期
三、五〇〇	四、〇〇〇	五、五〇〇	三、九〇〇	三、五〇〇	四、〇〇〇	四、五〇〇	四、五〇〇	反 當 收 量
三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、五〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	反 當 窒 素 量
四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	反 當 磷 酸 量
四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	加 里 量
開花前葉を敷く 枝を除く	一二回假種を行ふ 芽肝安	根元の腋芽を除く 多くの肥料を要す	移種困難 直播する 守の豫防	摘心して 四本出す 稗を敷く	越瓜に同じ	度々摘心を する瓜守 の豫防	早熟栽培が利益が ある	摘 要



附 錄 三

蔬菜特產地一覽表

胡 瓜

針ヶ谷胡瓜 埼玉縣北足立郡與野町  
馬込半白胡瓜 東京府荏原郡馬込村  
刈羽節成胡瓜 新潟縣刈羽郡西中通村  
落合節成胡瓜 埼玉縣北足立郡與野町

越 瓜

早生越瓜 東京府北豐島郡板橋町地方  
大越瓜 同 豐多摩郡野方村  
桂瓜 京都府葛野郡桂村

瓠 瓜

梨瓜 愛知縣愛知郡荒子村

隼 人 瓜

隼人瓜 鹿兒島熊本地方

南 瓜

早生小南瓜 東京地方  
縮緬南瓜 東京府荏原郡大崎町  
菊座南瓜 同 豐多摩郡淀橋地方  
西京南瓜 京都府鹿ヶ谷

西 瓜

大和西瓜 奈良市三條通 村上種子店  
アイスクリーム 其他奈良縣大和西瓜採種組合  
傳法寺 (一名石摺) 奈良縣山邊郡三階堂村  
スネーク (黒部西瓜) 愛知縣丹羽郡丹陽村大字傳法寺  
富山縣新川郡魚津町黒部

茄 子

早生蔓細千成茄子 東京府南葛飾郡金町村  
津田長茄子 島根縣八束郡津田村  
佐土原長茄子 宮崎縣宮崎郡佐土原町  
橘田茄子 愛知縣西春日井郡新川町







広島大学図書

2000302820

